

第10期事業報告

2013(平成25)年10月1日から2014(平成26)年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

I. 事業の成果

「モンゴル障がい児療育支援事業」では、昨年に引き続き、熱意のある療育専門家の協力・参加のもとに、4月から5月にかけて専門家がチームでモンゴルを訪問し、障がい児保護者の会を中心に、期間中に医師が診た障がい児33人について聞き取り調査を行い、保護者の会でその結果の概要報告を行った。その後、保護者の会では何人かのリーダーにより、自主保育の場づくりや調査に向けての活動が始まっており、こうした実態調査の大切さが理解され、活動を促進することができたと考えられる。

また、理学療法士が家庭療育ガイドブックを製作し、モンゴル語に翻訳して持参した。診察・聞き取り調査と並行して、これを配布して、保護者とお子さんと一緒にセミナーを実施し、大変喜ばれた。

療育にかかわる人材育成の面では、専門家訪問期間中2日間にわたる理学療法士の研修を地方からの参加も含め19人を対象に実施することができた。

車いすの支援については、専門家の協力により、あらかじめ現地での採寸に基づいて身体に合った車いすを探し、付属品を誂えて現地で障がい児に手渡すことができた。

こうして広がってきたモンゴル療育支援事業を、今後どのように進めていくべきか方針を出すために、9月に療育専門家を2人派遣した。

財政面では、モンゴル障がい児療育支援事業に2年目となる助成金を受領して事業をすすめることができたが、今後の支援の展開方法により、事業推進体制の見直しが課題である。

II. 事業の実施に関する事項

| 事業名 | 内 容 | 実 施 日 時 | 実 施 場 所 | 従事者 の人数 | 受益対象者の範 囲及び人数 | 支出額 (千円) |
|--------------------------------------|---|-----------------|--------------------------------------|------------|-----------------------------------|-------------|
| 1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業 | | | | | | |
| (1) モンゴル障がい児療育支援事業 | | | | | | |
| ア. 療育専門家の訪問 | 療育専門医、理学療法士、保健師、看護師、車いす技術者の参加協力により 8 名のチームで訪問。医療機関、障がい児施設での診察、訓練指導、講義、セミナー、車いすの調整を実施。 | 4月25日～ 5月5日 | モンゴル国 ウランバートル市内、障がい児保護者の会 他3か所 | 8人 | 障がい児医療従事者：約10人 障がい児・者と家族：約100人 | 1,369 |
| イ. 理学療法士(PT)研修会 | 「脳性まひ児の理解、運動障害児の療育者への指導法、脳性まひ児の摂食指導」をテーマとして開催。 | 5月1日～ 5月2日 | モンゴル国、ウランバートル市、国立母子センター・リハ科 | 5人 | 直接的対象者(PT, 医師、保母)：19人、訓練児と家族：約20人 | 158 |
| ウ. 専門家派遣 | 医師、理学療法士の専門家を派遣し、今後のニンジンの支援の方法を検討した。 | 9月11日～ 9月24日 | モンゴル国、ウランバートル市、障がい児保護者の会、ソヴド保育園、他 | 2人 | 障がい児医療従事者：約10人 障がい児・者と家族：約100人 | 834 |
| エ. 車いす支援 | 車いす、装具等を収集・整備し、32台をモンゴルに運んで寄贈した。専門家訪問時に調整して手渡す。 | 11月～ 5月 | 東京都板橋区、ウランバートル、 | 10人 | モンゴル国の障がい児・者と家族：約100人 | 239 |
| オ. 活動報告会 | 事業の報告会を開催しあわせてモンゴル音楽を聴いた。 | 7月5日 | 東京都新宿区 | 20人 | 一般市民：161人 | 217 |
| カ. 支援事業の運営 | モンゴル側窓口を依頼して、日本側事務局と連携して上記事業を実施した。 | 年間 | モンゴル国ウランバートル市、 東京都中央区 | 4人 | | 581 |

| 2. 海外の障がい児・者等との交流事業 | | | | | | |
|----------------------------|----------------------------------|------------|-----------------|-----|------------------|-----|
| (1)モンゴル、タイ等への研修・交流ツアーの企画実施 | | | | | | |
| ア. モンゴル交流ツアー | 9月に専門家を派遣することになり取りやめた。 | | | | | 0 |
| イ. 北タイ・焼畑の村スタディツアー | 北タイのラフ族の村に滞在し、森復活の取り組みに学び、村人と交流。 | 2月7日～2月13日 | タイ、チェンマイ、チェンライ、 | 9人 | 北タイラフ族等：約100人 | 941 |
| ウ. タイへの高校生スタディツアー | 高準備作業をすすめていたが、タイの政情不安により、中止となった。 | | | 3人 | | 0 |
| 3. 啓発事業 | | | | | | |
| (1)セミナー等の開催 | モンゴルの母子保健にかかわる情報交換会 | 7月26日 | 東京都新宿区 | 5人 | 保健医療関係者、一般市民：32人 | 0 |
| 4. 文化交流事業 | | | | | | |
| (1)ハワリンバヤルへの参加 | モンゴル文化交流イベントへブース出展し、活動を紹介。 | 5月3,4日 | 東京都練馬区 | 10人 | 一般市民：5万人 | 28 |
| 5. 情報提供事業 | | | | | | |
| | HP、ブログ等、ニュースレター等の発行により情報を発信。 | 随時 | 法人事務所 | 2人 | 一般市民：不特定多数 | 0 |

Ⅲ. 事業の報告

1. 海外との協力事業

(1) モンゴル障がい者支援事業

ア. 療育専門家の訪問

療育の各種専門家による訪問団がモンゴルを訪問し、保護者の会を中心に、医師が診察した 33 人の障がい児について実態調査を行い、結果を保護者リーダーに伝え、活動の方法を示した。並行して、理学療法士による保護者向けセミナー、PT 研修会、車いすの調整、配布、採寸を実施した。

実施期間：2014 年 4 月 25 日(金)～5 月 5 日(月) 11 日間

助成：公益財団法人日本国際協力財団

訪問先：ウランバートル市内、障がい児保護者の会、チンゲルティ区ゲル地区の家庭、同区第 16 ホロー家庭病院、ソヴド保育園、母子センターリハ科、

訪問団メンバー：8 名

中島雅之輔（整形外科医・東京都北療育医療センター）

諸石真理子（理学療法士・通所&入所施設嘱託）

立川雪子（保健師・東京都練馬区石神井保健所）

植木外喜子（看護師・東京都心身障害者福祉センター）

今清水勝人（車いす技術者・(株)ゼット本社）

中根和之（車いす技術者・(株)ゼット本社）

中島久子（中島医師夫人・記録）

槇ひさ恵（事務局）

現地協力：ヒシゲーさん（通訳）、高橋生仁子さん(NGO Sujatashand)

バヤラーさん・ホーギーさん・ダワーさん(通訳)、

主な内容：・保護者の会をはじめ 4 か所で中島医師が診た 33 人の障がい児について聞き取り調査を実施し、その結果報告会。

・保護者に向けて、モンゴル語で作成したハンドブック(脳性麻痺児の姿勢の取り方、体操編)の配布とそれを使っのセミナー(3 か所で実施)

・車いすの調整・配布、採寸

・PT 研修会の開催（母子センター・リハ科、2 日間、19 人）

成果：昨年までの啓発セミナーから、今回は実態調査の方法を実際にやって見せることにより、保護者リーダーたちが動き出すきっかけをつくることできた。

保護者が家庭で脳性まひ児を育てるのに役に立つハンドブックを配布し、セミナーを実施し、保護者たちに大変喜ばれた。。

1 年前に採寸したお子さんたちに身体に合った車いすや必要な付属品を渡すことできた。

課題：保護者の会のリーダーが自主保育や調査に向けて動き始めよ

うとしているが、それを継続したものにするための日常的な支援方法。そのための財政的な裏付け。

イ. 理学療法士(PT)の研修会の開催

専門家訪問の期間中の2日を使い、昨夏に続く2日間の研修を行った。

目的：脳性まひ児の専門知識を学び、脳性まひ児に関わる療育者へ「子どもの姿勢・動作」の関わり方を伝え、「摂食指導」ができるようになること

テーマ：①脳性まひ児について学ぶ

②運動障害児の療育者への指導法

③脳性まひ児の摂食指導

期日：2014年5月1日～2日

共催：国立母子センター

助成：公益財団法人日本国際協力財団

会場：国立母子センター小児病院リハ科理学療法室

講師：諸石真理子 PT、中島雅之輔医師①

通訳：バヤラー (Monkhdoi BAYARJARGAL) さん、ヒシゲーさん

研修生：19名 (母子センター4名、第10治療保育幼稚園7名、ソヴド保育園1名、セレンゲ県マンダル村第1保育園3名、伝統医療レーバ研究院3名、在住日本人 OT1名)、うち6名はリピーター

成果：地方からも含め19人に参加してもらえた。

モンゴルには障がい児への摂食指導を教える人がいないため、切実な課題で大変熱心に受講された。

ウ. 専門家派遣

目的：今後のニンジンの支援の方針を検討することを目的に療育専門2名を派遣し、保護者の会の活動を中心に関連機関、医師等と面談し、今後の療育支援事業の方向性を出す。

派遣専門家：梅村浄 (小児科医、梅村こども診療所)

吉濱信恒 (元特別支援学校教員&PT、ニンジン副理事長)

期間：2014年9月11日(木)～9月24日(水) 14日間

助成：一般財団法人まちづくり地球市民財団

訪問先：ウランバートル市内、障がい児保護者の会、チンゲルティ区、バヤンゾルフ区、ソヴド治療保育園、レフレックス病院、国リハ等

現地協力：ヒシゲーさん (通訳)、高橋生仁子さん(NGO Sujatashand)ダワーさん(通訳)、

成果：保護者の会のリーダーの数人が自主保育や、調査を行おうと具体的に動き始めていることが分かった。

エ. 車いす支援

あらかじめ採寸したお子さんの身体に合う車椅子・バギーなどを国内で探し、必要なベルト、クッションなど付属品を逃えて届けることに注力した。2回で合計 32 台をモンゴルへ届けた。専門家訪問時には、付属品の調整手渡し等も含め、47 人の障がい児に対し提供することができた。

専門家：今清水勝人、中根和之

助成：財団法人日本国際協力財団

協力：心身障害児総合医療療育センター、株式会社ゼット本社、
株式会社 MIKI、株式会社エムジェイツアーズ、モンゴル航空
高橋生仁子さん、ポーギーさん(自立生活センター)

| | | |
|---|-------------------------|--|
| ① | 搬出日 台数 寄贈先 申請者 | 2013年12月11日(水) JICA 世界の笑顔プログラム H25-2 22台、 保護者の会(車いす15台) 国立外傷整形外科センター(車いす2台) テンツェベルハット(脊損者施設)(車いす3台) シヤスティン中央病院神経内科病棟(車いす2台) 小泉隊員(PT、シヤスティン中央病院リハ科) |
| ② | 搬出日 台数 寄贈先 | 2014年4月24日(木) 療育専門家訪問団 10台、付属品、高さ調整テーブル 保護者の会(車いす10台) ソヴド保育園(高さ調整テーブル1台) |

オ. 活動報告会

モンゴル支援事業の報告をチャリティコンサート『モンゴルの風』とあわせ実施した。ロビーにモンゴルでの活動写真パネルを展示し、ステージからも帰国した協力隊員が現場の状況を報告し、エンジンの活動への理解を広めた。

開催日時：2014年7月5日(土) 19:00～21:00

会場：ルーテル市ヶ谷センター(東京・新宿区)

出演者：サウガゲレル(横笛リンベ、ホーミー)

山本敦子(ヨーチン)

報告者：小泉裕一さん、来場者：161名

カ. 支援事業の運営

以上の事業を、日本においては事務局を中心として行い、モンゴルでは、窓口として事業コーディネートをヒシゲーさん(モンゴル語-日本語通訳)に、車いす支援の窓口を高橋生仁子さん(NGO Sujatashand 代表)に依頼して事業を実施した。

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル、タイ等へ研修・交流ツアーの実施

ア. 『モンゴル交流ツアー～車いすを届ける旅』

9月に専門家派遣を実施することになり、取りやめた。

イ. 『北タイ焼畑の村スタディツアー』の実施

ラフ族の人びとを主として支援してきたルデラ（ラフ農村開発）では、森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みを行っている。この取り組みを実際に見て、あわせて村の生活文化を体験するスタディツアーを実施した。

実施時期：2014年2月7日(水)～13日(水) 参加者：9名

内容：チェンマイからチェンライへ移動。山の村でホームステイ、村の生活体験、森復活の取り組み見学、養豚講座、古着バザー開催、研修農場見学、子ども寮で交流。

ウ. タイへ高校生のスタディツアーのコーディネート

準備作業はしたが、タイの政情不安から中止となった。

3. 啓発事業

(1) モンゴルの母子保健に関わる情報交換会

最近のモンゴルにおける活動の近況、障がい児の実態調査、療育セミナー・PT研修の結果の報告と、今後の調査研究や現地での活動についての意見交換を行った。

日時：2014年7月26日(土)14:00～16:00

会場：国立国際医療研究センター、研修棟4階セミナー3、4

報告者：赤平百絵(小児科医・国立国際医療研究センター病院小児科14階医長)
中島雅之輔(整形外科医・東京都北療育医療センター)

諸石真理子(理学療法士・通所&入所施設囑託)

参加者：32人(保健・医療・養護関係者、市民)

4. 文化交流事業

(1) ハワリンバヤル2014(モンゴルの春まつり)への参加

モンゴル文化交流イベントにブースを出展し、モンゴルでの活動を紹介するパネル展示を行い、来場者に理解を広めた。

開催日：2014年5月3日～4日

会場：練馬区・都立光が丘公園

主催：在日モンゴル留学生会／実行委員会

5. 情報提供事業

(1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログによる発信に努め、情報の提供に努めた。

HP：<http://www.ninjin-npo.org/>

ブログ URL : <http://blog.canpan.info/ninjin-jpn/>

情報公開サイト、寄付サイトへの情報更新、イベント情報の発信を行った。

(日本財団 CANPAN、日本 NPO センターNPO ひろば、イーココロ)

(2) ニュースレターの発行、Eメールニュース(ニンジン・アップデート)の送信

6. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

| | |
|--------|----------------|
| 会員数 | (2014年9月30日現在) |
| 個人正会員 | 35名(41口) |
| 団体正会員 | 2団体 |
| 個人賛助会員 | 37名(41口) |
| 団体賛助会員 | 2団体 |

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催

期 日 : 2013年11月24日(日)

会 場 : 中央区女性センターブーケ21

イ. 理事会の開催

期 日 : 11月24日、1月31日、

ウ. 運営委員会の開催

理事および会員有志からなる運営委員会において事業の詳細を決め実施。

(3) ニンジン・サポーターズ倶楽部

イベント等に出展して、ニンジンの宣伝・広報・募金活動に活躍した。

①モンゴル料理教室

日時 : 12月8日(日) 14:00~17:00

会場 : 上北沢区民センター(京王線上北沢駅下車)

講師 : ニンジンから協力隊OGの野沢綾子さんと佐竹裕美さんが担当。

当日、ボロルさんが活躍

②順天高校スponsoredウォーク 団体プレゼン : 4月8日

強歩大会 : 4月26日 応援に吉濱信恒さん、野口陽子さん、宮崎節子さん、大友喜久江さんの4名参加

受領寄付額 : 131,392円

③ハワリンバヤル

期日 : 2014年5月3日~4日 野沢綾子さん、梅村浄さん、ボロルさん他

⑤チャリティコンサート「モンゴルの風」